２０２４年１２月１２日（木）

老球の細道８４２号

会津地区高校新人地区大会雑感

会津バスケットボール協会　　室　井　冨　仁

孫息子が学校から帰って来ると毎日モグラ捕りにつき合わされていたが、先週の週末から「教養（今日用事がある）、教育（今日行く所がある）」の充実したバスケットの日々を過ごすことができた。会津地区の高校新人大会観戦と２つのクリニックを同時にこなした。

高校新人地区大会はミニバス時代に教えさせていただいた子どもたちが、各高校で１年生ながら主力メンバーとして活躍していた。その子供たちが高校でどれだけ成長したかを見るのは至福の楽しみである。ストーブのそばで暖を取り、熱燗のコーヒーを味わいながら。

現在の会津地区男子の新人大会世代は黄金世代であり、ミニ、中学時代に県大会優勝、準優勝、ベスト４など２年間にわたって実績を残している。何人かは会津地区外の高校に進学しているが、大多数は地元に残ってがんばっている。

男女共決勝戦は１点差を争う好ゲームであった。多くのチームの実力は拮抗し、これからの練習しだいで順位はまた変動する可能性はあるだろう。ファンダメンタルがまだまだ不十分な選手が多く、デイフェンスにプレッシャーをかけられたり、プレスデイフェンスを仕掛けたりすると、なんでもない場面でターンオーバーをして相手にイージーな得点を与えるケースが目についた。これから県大会に向けてプレスデイフェンスに対するボール運びをチームプレイとして準備する必要があるだろう。

デイフェンスはビックマンがいないためにオールコートプレスデイフェンスを武器とするチームが多かった。新人大会のために準備する時間が少なかったと思うが、同じデイフェンスをやり続けることも重要であるが、相手に慣れさせないためにいくつかのバリエーションを増やすとさらにデイフェンスの利き目を増すことになるかもしれない。

２０００年に勤務していた会津高校時代のチームは１８０㎝以上の選手が皆無で、ほとんどが１６０㎝、１７０㎝のチビッ子軍団で戦っていた。チームのニックネームが「会高ミクロキッズ」。天は二物を与えず。身長は低かったが、全員身体能力、闘争心旺盛だったためにオールコートプレスデイフェンス、オールコートオフェンス（今でいうアーリーオフェンスを含むトランジションオフェンス）で勝負して、身長の高いチームにも互角以上に戦えた。

特に相手にプレスデイフェンスに対して慣れさせないためにマンツーマンプレスは３つの変数を作った①ボールマンへのプレス（１：１or ダブルチーム）②ダブルチーム（ドリブル or パス）③プレスをかける場所（フルコート or スリー・コーターor ハーフ）。この３つの組み合わせでいくつかのデイフェンスバリエーションを準備した。１９９２年発行の米国ノースカロライナ大学 HC デイ―ン・スミス（M・ジョーダンの恩師）著『BASKETBALL マルティプルオフェンス＆デイフェンス』〈日本文化出版〉を参考にした。

近年、会津地区高校は負けが続く。しかし、負けの惨めさは敗者のみに与えられる栄光への糧である。負けの惨めさの中で新たな闘志を抱いていくことを知ったチームは強くなる。